

# 森本遺跡とは？

阪急京都線の西向日駅と東向日駅のほぼ真ん中、第3向陽小学校のあたりにあった、縄文時代後期から古墳時代にかけてのムラ跡です。有名な人面付壺形土器のほか、縄文土器、弥生土器、木・石でできた農耕具、水路跡、竪穴住居などが見つかっています。

縄文時代から人々が住みはじめ、弥生時代には乙訓地域を代表する大きなムラになった貴重な遺跡です。

## これが人面付壺形土器だ！

弥生時代の人はこんな顔をしていたのかもね。



11.9cm

154cm

(府指定文化財)

## 何に使うものだったの？

水路跡から出土したこの土器は、弥生時代中期前半につくられた壺の一部だと思います。米作りが行われていた森本ムラでは、悪霊をはらい豊作を祈るマツリも行われていたことでしょう。これはそのようなマツリでつかわれた壺だと考えられています。



こんな壺だったの？  
かわいい！

## 用水路跡を見に行こう！



第3向陽小学校の運動場内にある森本遺跡の用水路跡は、地下に保存されています。現在は芝生で整備され、解説板が設置されています。

一度見学してみてもいいでしょう。



見学するときは学校に連絡してね！

第3向陽小学校  
075-932-1003



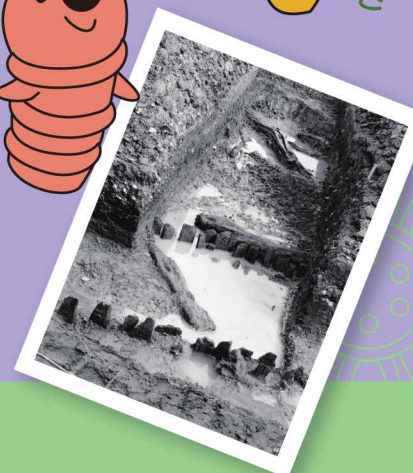
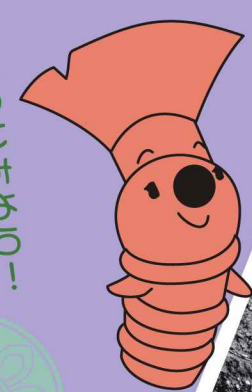
# 森本遺跡

もりもと いせき



弥生人のムラ

想像してみよう！



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL. 075-931-1111

# 2000年前の 森本弥生ムラ を再現!

第3向陽小学校の運動場南端の地下から、弥生時代の水路跡が発見されました。運動場の地下からはイネの花粉や茎が見つかり、この辺りに水田があったとみられます。森本ムラの人々は、住居を台地上に集めて水田を広げ、米の収穫量を増加させました。安定した生活を求めてさらに人々が集まり、弥生時代中期には約600m四方におよぶ大きなムラになりました。



森本遺跡の出土品から、弥生時代の人々の暮らしの姿がみえます。

## お墓

遺跡の西部で、方形周溝墓という四角いお墓が見つかりました(岸ノ下遺跡)。弥生時代後期の、森本ムラに住んでいた有力な家族の墓だと思われます。

## 狩猟具



米作りがはじまってからも、狩猟は続きました。森本遺跡でも銅鏃(銅の矢じり)や精巧な丸木弓が出土しています。

## 食生活

いろんなものを食べていたんだ。

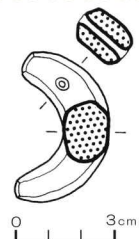
▼弥生時代の食事(想像図)



弥生人は主食である米のほか、モモやオニグルミなどの木の実も食べていたことがわかります。また、狩猟や漁労でとったものも食べていたようです。

## 装飾品

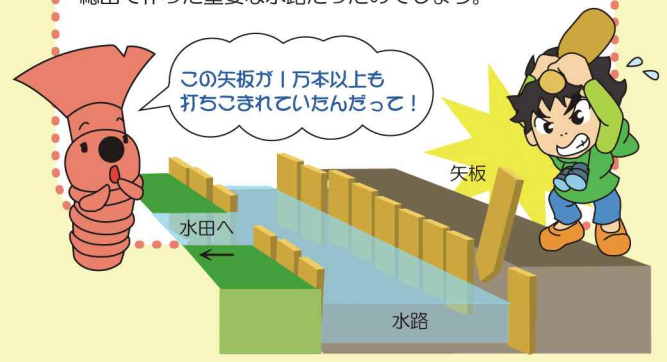
土でできた  
美がたまり玉



ちゃんとおしゃれもしていたのね。

## 用水路

水路は段丘に沿って長さ400m以上にわたるもので、たくさんの矢板で両側を護られています。これには大がかりな工事が必要で、ムラ人総出で作った重要な水路だったのでしょう。



この矢板が1万本以上も打ちこまれているんだって!

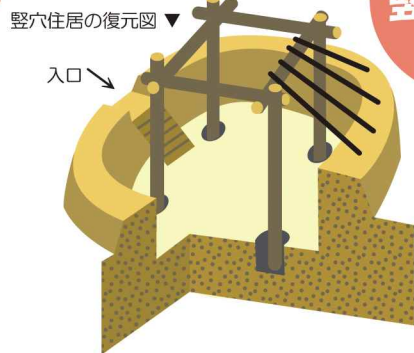
## 農耕具

へえー、こんなふうに使っていたのね。



弥生時代には、田起こし、すき取り、稲刈りなど稲作のための農耕具や、木を切って加工するための鉄製工具など、新しい道具がつけられました。

## 竪穴住居



柱の穴があいているのがわかるね。

竪穴住居は、地面を円形や方形に掘り下げ、柱を数本立てて、わら葺きの屋根をささえる構造の住まいです。夏は涼しく、冬は暖かい住み心地の良い住まいでした。



竪穴住居跡